

# FOCUS

追いかける。大学生。

神戸大・3年  
長井 拓馬さん

丹波篠山を愛する男

「将来は篠山に住みたい」。こう語るのは長井拓馬さん（神戸大・3年）。丹波黒大豆の本場、兵庫県篠山（ささやま）市とのつながりは、現地で行われた授業「農業農村フィールド演習」がきっかけだ。授業を機にサークルを立ち上げ、現在も足繁く通っている。



神戸大農学部3年。篠山市福住（ふくすみ）地区で活動するサークル「ユース六篠（りくそう）」の代表で、農学部の地域連携センターで週1回学生スタッフとして働く。2012年には60日近く篠山入りするなど、アクティブに活動している。

山市内の農家のもとへ1年間学生が通って、ボランティアをすることで「現場の農業」を見ることができた。植物の栽培や、環境問題に興味があった長井さんは、「農村に行けるから」という軽い理由で授業を履修した。最初の1年間は「とにかく楽しく、しんどさを感じなかった」と話す。「生産者の側から、食品を作る上での創意工夫をじかに学べた」という。サークルに入っていない長井さんは「農業のしんどさが見えてくるまで、ボランティアを続けたい」と決意。「どのような形で活動したら地域のためになるか」

## 「将来は篠山に住みたい」

と考えると、2年生の時には農業サークル、ユース六篠を立ち上げ、お世話になった福住地区に通い続けた。

2月9日には、福住地区のまちおこしイベント「雪花火2013」にスタッフとして参加。真冬の夜を明るく照らすこのイベント。もともと人を誘うのが得意でなかった長井さんだが、「この地域を知らない人にこのイベントを知らせたい」と、Facebookなどで友人らに参加を呼びかけた。

その結果、40人を超える学生が雪花火のスタッフや観客として来場。夜の小学校の校庭に浮かび上がる幻想的な光の下で、学生と地域住民がひとつになった。

植物や環境に対する興味から篠山に入り始めた長井さん。最近は農村に関わる他のことにも興味が出てきたという。授業をたくさんとり、篠



「雪花火」で夜の校庭に打ち上げられた花火（2月9日 撮影＝鈴木太郎）

山に何度も足を運ぶことで、自分とは別の視点から多角的に農村をとらえられるようになったと話す。

憧れは、篠山に駐在しながら自分のような学生ボランティアをコーディネートするスタッフになること。「好きなことをしながら、後輩たちに自分のやってきたことを伝えられる。僕みたいに活動する学生にいろんなきっかけが与えられたら」と目を輝かせた。

（聞き手＝鈴木太郎）



代表を務めるサークル「ユース六篠」が手伝ったイベント「雪花火」の一コマ

## UNN関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>

共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24 ダイニホンビル4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) [info@unn-news.com](mailto:info@unn-news.com)

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会  
同志社大学 PRESS 編集部  
NEWS 立命通信社  
関学新月通信社  
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部  
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部  
京都女子大学藤花通信編集部  
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです